

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 和)

| | | | |
|---------|-------------------|-------|------------------|
| 事業所番号 | O670700939 | | |
| 法人名 | 十和建设株式会社 | | |
| 事業所名 | グループホーム「和心」ふじ荘 | | |
| 所在地 | 山形県鶴岡市八色木字西野335-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 27 年 10 月 22 日 | 開設年月日 | 平成 18 年 1 月 17 日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者それぞれの「人生」を大切に、一人ひとりの思いを引き出し、その人らしい生活が送れるよう心がけております。また、地域行事に参加したり、施設内で催す行事に地域の方々への参加を呼びかけ、地域との交流に努めております。その中で毎日を安全で安心、楽しく過ごしていただけるよう支援を心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は設置されてから10年目に当たり、運営にも慣れ、また、地域の理解も高まり、グループホームらしい支援が可能になってきている。利用者は日々の生活で、それぞれが調理・縫物・洗濯物整理・雪囲い等自分の得意なものを活かして役割を持ちながら、その人らしい生活が出来ている。施設長・管理者はじめ職員の生活支援に対する意識・熱意がこれを支える基盤となっている。また、市町村とは、相談員の派遣や推進会議への出席、行政事業への協力等で連携が密であるし、地域とも、事業所が地域活動支援センターの会員になって防災等々で協力を得るなど、相互の交流が活発であり、支援活動の基盤となっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/O6/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------|---------|------------|
| 評価機関名 | 協同組合オール・イン・ワン | | |
| 所在地 | 山形市検町四丁目3番10号 | | |
| 訪問調査日 | 平成27年11月11日 | 評価結果決定日 | 平成27年12月4日 |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 55 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 62 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 56 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 63 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 57 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 64 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 58 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 51 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設内数箇所に、共有理念を掲示し、全員で確認し、理解に努めている。施設長が折にふれ地域との関わりの必要性を話されている。 | 会議室などに理念を掲示するとともに、支援する際の心掛けである「五心」なども掲示しながら、朝のミーティングや月例職員会議において全員で確認し合い、理念の実践に繋げている。また、リーフレット等印刷物にもできるだけ大きく理念を掲示するようにし、地域の方に理解・信頼していただくよう全員で努めている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 事業所として地域行事のお祭り、文化祭等に賛同し、入居者の方が参加できるようにしている。また、施設での行事の時は地域の方に参加を呼びかけている。 | 事業所として町内会へ加入し、地域のお祭り・文化祭や敬老会、更には花植え行事に参加するとともに、施設の夏祭りやクリスマスには推進会議委員等地域の方の参加もいただいている。また、2か月に1回発行の「ふじ荘だより」も公民館で配布するなど、施設長はじめ職員は地域の一員として認めてもらい、日常的に交流している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会等を通じて施設内の様子を知らせている。又、地域の支援センターと共に認知症の人の理解や支援の方法などの質問などにも答えている。 | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 二ヶ月に1回会議を開催。施設、入居者の様子を報告し、参加者より意見、助言を頂いている。それを職員に報告し、ケアの向上に繋げるように努めている。 | 2か月に1回、市職員・市介護相談員・町内会長・民生委員・公民館長・家族代表と施設長・職員とで開催している。会議では、利用者やサービスの状況、事故や「合同オレンジカフェ」の計画等について報告を行った後、参加者から情報や率直な意見を頂いている。防災関係等々についての質問や意見を頂戴し、それを市や参加者の協力を得て、サービス向上に活かしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 5 | (4) | <p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p> | <p>毎月2回介護相談員の方が来荘、入居者の方に関わって頂いている。市町村の担当の方が運営推進会議に参加、情報交換している。</p> | <p>市からは、運営推進会議に一般職員と介護相談員の参加を得るとともに、毎月2回、介護相談員の訪問が有る。その際に、利用者の相談を受けてもらったり、事業所の意見を訊いてもらったりしている。現在、市の計画の合同オレンジカフェの開催に向け準備中であるなど、市とは、いつでも適切に相談ができるような協力関係を築いている。</p> | | |
| 6 | (5) | <p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p> | <p>夜間帯を除き、日中は鍵をかけず、入居者が自由に出入りできるよう配慮している。危険行動など問題が発生した場合はカンファレンスを行い、より良いケアの提供に努めている。安全面で問題がある場合の対応として、入所時、家族に説明し、同意を頂いている。</p> | <p>学習会で、身体拘束をしないケアのマニュアルを基に学び合いながら、また、利用者の行動パターンやケアの仕方について共通認識を持ちながら、より良いケアの提供に努めている。職員も良く理解し、工夫している。帰宅願望のある利用者についても、一人ひとりの生活の特徴を念頭に見守りの徹底を図り、適切な付添いで対応できている。</p> | | |
| 7 | | <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> | <p>外部研修をもとに、内部研修を開き虐待に対する意識を高め、防止に努めている。</p> | | | |
| 8 | | <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p> | <p>以前後見制度を利用していた入居者がおりましたので職員も概ね理解している。また外部研修にも参加している。</p> | | | |
| 9 | | <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>契約時には十分な説明を行い家族等の不安や疑問点を確認し説明している。</p> | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情相談窓口がある事を家族に周知しており、いつでも相談出来る様になっている。又、家族の来荘時に困っている事、問題は無いかな声掛けしている。 | 利用者からは、日常の会話で聴いたり、市の相談員来訪の際に相談員から聞いてもらったりしている。また、家族からは、面会・行事・通院・支払・家族会等で数多くの機会に面談できるよう工夫し、聞き取るようにしている。相談窓口の設置もお知らせしている。 | | |
| 11 | | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 全体会議、ユニット会議において職員の意見を聞く場を設けている。また、職員へのアンケートも実施している。 | | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の資格取得を奨励し、資格手当を設け給料に反映し環境整備に努めている。 | | | |
| 13 | (7) | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員一人ひとりの経験などを考慮し外部研修に派遣している。特に新人職員には業務中にその都度、指導している。 | 毎月の職員会議の後に時宜に合ったテーマで内部研修したり、年に1回程度職員に適した外部研修に派遣したりして、職員の資質の向上に努めている。派遣後の復命伝達により情報の共有化を図っている。採用時は、先輩職員のQJTで、数日を掛けて基本研修を行っている。また、資格手当を設けて資格取得を推奨するとともに、学習の支援を行っている。 | | |
| 14 | (8) | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている | 県グループホーム協会の研修や庄内連絡会の研修及び交換実習にも積極的に参加し、他施設との情報交換等も行っている。 | 県グループホーム連絡協議会に加盟して、県全体・庄内地区の会議・研修会や交換実習に積極的に参加させながら、職員の技術向上と人的ネットワークの形成を図り、サービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 今までに生活されてきた環境や様子などの記録を踏まえ、言葉掛けに注意しながら要望等に耳を傾けている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居される前の段階から、家族と話し合いを持ち、要望、希望等、聞くようにしている。また、面会や通院時にも話し合いの機会を設けるようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人、ご家族、管理者、ケアマネ、職員で話し合い、入居者が必要とする支援を心掛けている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者を尊重しながら、出来ることを見つけ、又人生の先輩として尊敬し、職員が教えてもらうことも多い。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族から、外出、外泊に連れて行ってもらったり、自宅への外出希望がある入居者の方には、家族と連携し、支援している。 | | |
| 20 | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 前に住んでいた地域を訪問したり、近所の方が訪れてくれたりしています。家族、親戚の方が、通院外でも面会に来ていただいている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 認知症が進んでくると、利用者間の関わりが薄くなってしまいますので、ゲーム、レク、会話等を通し、間に入り、支援に努めている。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後利用者の家族にお会いした時は近況を尋ねたり、写真などを送ったりと関係を大切にしている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 今迄の暮らしを基に毎日の会話等から希望や意図をくみ取り、稀に困難な方の場合には出来る限り、本人の立場に立って対応している。 | 利用者の思いは、日々の生活の中で利用者が発する言葉や表情、行動を、個人ケースや連絡ノートに詳しく記録し、職員全員が情報を共有できるようにしている。その記録と利用前の面接記録等を総合的に見ながら、検討会で話し合い、本人の真の意向の把握・検討に努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人、家族、施設等の情報を多く得るようにし把握に努めている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | その人に合わせた活動(散歩、運動)又は調理・洗濯物たたみをして頂いたり、お手伝いをお願いしたりと意欲を持って一日を過せるように努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月ユニット毎にケース会議を行い、現状を把握し課題、問題点の解決に努め、計画の見直しを行っている。又、家族や職員ケアマネ管理者で話し合いの場を設けている。又施設の看護師にも相談している。 | 利用者の状態に変化がなければ3か月毎に、毎月全員で開くケース検討会議において、モニタリング及び介護計画の見直しを行っている。見直しに際しては、記録を基に、計画された内容の達成度合いや、新たな課題などについて全員で話し合い、意見やアイデアを出し合っている。また、家族の意見・医師の所見などを踏まえて、現状に即した介護計画となるよう努めている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日一人一人の様子、気づき等を個人ケースや連絡ノートに記録し、職員全員で情報を共有している。 | | | |
| 28 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | | | | |
| 29 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診時は医師に、毎日記録しているバイタルや様子などを記録した用紙を持参し、家族にも情報提供し、医師からの指導を家族・職員で共有している。 | 本人・家族の希望で決めた主治医に、原則的には家族が付き添って受診している。往診してくれる医師もいる。受診時は、バイタルや生活様子、特記事項などを記載した「受診票」を持参している。受診結果・指導を記録に記載し、職員及び家族と情報の共有化を図っている。 | | |
| 30 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 利用者一人ひとりの体調や日常の様子等を報告し、対処が必要なときは指示を受けて行っている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | <p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p> | <p>係りつけ医、協力医療機関とは常に相談・情報交換できる関係作りを行っている。又入院した際は病院関係者と連携を密にしている。</p> | | |
| 32 | (12) | <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p> | <p>入居時に施設の方針を説明し、理解して頂いている。重度化した場合も、本人、家族等と話し合い、今後の支援の方針を共有している。</p> | <p>重度化及び看取りに対応する方針を入居時に説明し、日頃から話し合う機会を持っている。重度化した場合には、その都度、利用者・家族、医療関係者と適切な支援方法について話し合い、方針を共有している。</p> | |
| 33 | | <p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p> | <p>緊急マニュアルで初期対応を把握している。また、地域の消防署の協力を得て、年一回は応急手当、初期対応の訓練を行っています。</p> | | |
| 34 | (13) | <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p> | <p>まだ万全とは言えないが、月一回の自主防災訓練の予定で実施、年二回消防署、地域消防団との訓練を行っている。地域との緊急時の連携はこれからは図る必要がある。</p> | <p>毎月自主的に様々な訓練を実施するほか、年2回は消防署・消防団や会社・町内会班長などの協力を得ながら災害訓練を実施している。備蓄についても母体法人などと連携して有事に備えるよう努めている。</p> | |
| Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 35 | (14) | <p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p> | <p>一人ひとりの思いを尊重し入居者に対しての言葉遣い、声掛け等も注意し対応している。職員会議などでも話し合っている。</p> | <p>日頃から職員会議やミーティングで一人ひとりの思いを尊重し、言葉遣い、声掛け等も注意し対応している。特に排泄や入浴に際しては、丁寧でさりげない言葉かけを実践している。プライバシーに関しても、個人的な内容は他の人に聞えないように配慮するなど、日頃から職員間で注意し合っている。</p> | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 36 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の思いを知るために、日常生活、過去の情報から関わりの持ち方を探り、その引き出しに努めて行くようにしている。 | | | |
| 37 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者のやりたいと言う思いを尊重して、本人のペースに添うかたちで過して頂けるように支援に努めている。 | | | |
| 38 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 理容は本人の希望に合わせて理容師が対応しています。髭剃り等、自分で困難な方には援助していますし、洋服も本人から選んでもらい要望に応じています。 | | | |
| 39 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | その季節の食材を楽しめるように工夫しており、入居者と職員と一緒に調理したり片付けたりもする。 | 担当職員が考えた献立に皆の考え方を入れながら、三食共、利用者と職員が一緒になって準備し、調理して食べ、片付けを行っている。自分たちで栽培したナスやキュリ等も活用しながら、また、特に地元で栽培された多くの種類の果物を使用しながら、季節感を感じ、また、地域性を感じながら、全員でテーブルを囲み、楽しく食べている。メニューが多様で、家庭的な雰囲気が感じられる食事である。 | | |
| 40 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 医師、看護師の指示で水分、食事内容が制限されたりします。その場合は指示に従いチェックおこなっています。定期的に体重測定し体調管理に努めています。 | | | |
| 41 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアの声がけをし介助の必要の方には介助を心掛け口腔ケアをしてもらっている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 42 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 一人ひとりの排泄表の記入をしたり、一人ひとりの排泄状況を把握し時間を決めたり、声がけ、訴えで必要に応じて介助している。 | 排泄チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人のリズムに沿ったさりげない声掛けや定時誘導などにより、できるだけトイレで、できるだけ自立して排泄ができるように支援している。 | | |
| 43 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防の体操をしたり、献立に乳製品や果物を取り様配慮している。状況に応じて下剤を利用し調整しています。 | | | |
| 44 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている | 一人一人の希望や好みに応じて時間や入力に配慮している。入浴剤等を使用し、気分転換等も出来るようにしている。 | 一人ひとりの習慣や希望に沿いながら、週に2回は、気分よく入浴して頂いている。利用者によっては、誘う方法等を職員間で検討し、足湯なども活用しながら支援している。また、入浴剤を使用したり、入浴に変化を持たせている。 | | |
| 45 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人一人の希望を聞いたり、状況に応じて休息してもらったり、不安なく眠れる様対応している。 | | | |
| 46 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬情報で効用・副作用を確認している。服薬の際は職員一人の対応ではなく必ず複数での確認、飲み込むまで見守っている。 | | | |
| 47 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 調理や後片付け、掃除や縫い物等の個人の力に合わせた役割をして頂いている。又カラオケやレクリエーション等も楽しめるように心掛けている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 48 | (18) | <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p> | <p>月に一度、行事を施設全体で行い、季節を感じてもらえるような支援もおこなっている。気分転換を兼ねたドライブや散歩など戸外に出かける機会は確保されている。家族対応での外出、外泊などの協力もお願いしている。</p> | <p>日頃から天気の良い日は散歩や畑仕事、雪囲いなど戸外に出かけたり、活動したりする機会を確保している。また、月に一回は花園や空港見学などの行事を実施して、季節を感じたり、多くの人が活動する雰囲気を感じてもらえるような支援も行っている。一方、家族の協力で、美容院等に外出したり、実家に泊まる等の支援も行っている。</p> | | |
| 49 | | <p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> | <p>必要な物など本人から申し出があれば購入し対応している。本人の希望によりお金を所持する事も可能である。</p> | / | | |
| 50 | | <p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p> | <p>本人が希望された時は電話が出来るようになっている。年賀状も出したり、手紙も自由にやり取りできるようになっている。</p> | / | | |
| 51 | (19) | <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>共用の場所や、入居者のお部屋が判るように表示し、混乱しない様配慮している。室内はカーテンを利用し室内環境を整えている。又、季節の花を生けたり工夫している。</p> | <p>居間のテーブルやソファーには、調理の手伝いをしている人も縫物をしている人もいる。居間の中にある台所からは、料理する音や匂いを感じることができる。所々に写真や絵、季節の花が飾られ、利用者がゆったりとそれぞれの過ごし方をしている。生活感を感じられる居間である。</p> | | |
| 52 | | <p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>好きな場所で過したり、気の合った方々で会話したりして過す場所もあり、食堂にもソファーがあり、お茶の時間など気の合う人隣に座り談笑したりする場所になっている。</p> | / | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 53 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | テレビを置いている方もおります。家族の写真や好きな物を飾り居心地よく過せるようにしています。 | 居室には、事業所が用意したもののほか、利用者が持ち込んだ使い慣れたベッドや衣装ケース等が置かれ、壁や棚や枕元には、家族の写真や利用者の作品が飾られたり、利用者それぞれの住まい方が有り、居心地良さが感じられる。 | | |
| 54 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室、トイレ、洗面所の棚、下駄箱には名前をつけて場所を覚えられるようにしています。入浴中の表示をさげてわかるように対応している。 | | | |